

韓国現代戯曲 ドラマリーディング

Vol.7

韓国現代戯曲ドラマリーディング第7弾

現代韓国演劇界をリードする3人の韓国人劇作家の作品のリーディング

跡継ぎ息子がほしいばかりに次々に多くの女性と関係を持ってきた父。それぞれ心に傷を持った腹違いの娘たち。父と四人の娘の物語…『五重奏』

期せずして脱北した主人公木蘭は、韓国での生活に幻滅し、再び北に帰る決心をする。2012年に数々の演劇賞を受賞した…『木蘭姉さん』

父子二世代にわたるドラマで語られる小市民における韓国現代史。2013年韓国国内の数々の演劇賞を受賞し、2014年早くも再演された…『アリバイ年代記』

日韓演劇交流センター 2014年度事業
文化庁委託事業「平成26年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

1月15日(木) 19時 / 17日(土) 14時 開演

五重奏

作：キム・ユンミ 翻訳：鬼頭典子 演出：保木本佳子

1月16日(金) 14時 / 17日(土) 19時 開演

木蘭姉さん

作：キム・ウンソン 翻訳：石川樹里 演出：松本祐子

1月16日(金) 19時 / 18日(日) 14時 開演

アリバイ年代記

作：キム・ジェヨブ 翻訳：浮島わたる 演出：公家義徳

1月16日(金) 18時45分～

歓迎セレモニー

1月18日(日) 17時～

シンポジウム『女性が世界を変える』

キム・ミョンファ キム・ユンミ 永井愛 小林七緒 大笹吉雄

料金：各1,500円(全席自由)

通し券：4,000円(日韓演劇交流センターのみ取扱)

シンポジウムみみの場合：500円(全席自由)

※ドラマリーディングの半券提示の場合は無料になります。

前売開始：2014年11月30日(日)

会場：シアタートラム

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 4-1-1

TEL:03-5432-1526

東急田園都市線三軒茶屋駅(渋谷駅より2駅5分)

世田谷線三軒茶屋駅となり

主催
文化庁、日韓演劇交流センター
制作

日韓演劇交流センター

提携

(公財) せたがや文化財団

世田谷パブリックシアター

後援

駐日韓国大使館 韓国文化院 世田谷区

助成

文化庁



お問い合わせ
日韓演劇交流センター

〒177-0051 東京都練馬区関町北 4-35-17

東京演劇アンサンブル内

TEL:03-3920-5232 FAX:03-3920-4433

http://www.tckj.org/ (公演情報のみ) MAIL akira@tee.co.jp

『五重奏』 오중주……………2003年作品

★=育成対象者

公演日程

作=金潤美 (キム・ユンミ) 김윤미

1967年、慶尚北道春化に生まれる。小説を書くために入学した中央大学文芸創作学科在学中にベケット、イオネスコなどの影響を受け、創作を開始。たちまち1988年、『列車を待ちながら』で東亜日報新春文芸戯曲部門に当選、登壇。卒業後、社報の記者をしながら順調に創作活動を重ね、数々の有名演出家と出会う。1993年、第一回大山文化財団創作支援に選定。延世大学大学院国語国文学科修士課程、博士課程終了。公演戯曲に『五重奏』『メディアファンタジー』『楽園での昼と夜』『結婚した女、結婚しなかった女』『チェア』『椅子』『ナクタブル』他、戯曲集に平民社『キム・ユンミ戯曲集1~4』がある。デビュー以来、自身の経験に基づいた激しく鮮烈な作品を排出してきたが、近年は作風の幅を広げ、『京城スター』(演戯団コリベ、イ・ユンテク演出、大学路芸術劇場大劇場)のような、韓国エンターテインメントを意識した作品も見られる。

演出=保木本佳子★

脚本家・演出家。大阪芸術大学舞台芸術学科非常勤講師。大阪現代舞台芸術協会 (DIVE) 理事。2005年、大阪芸術大学大学院芸術制作研究科修了。同年、処女戯曲『女かくし』で第3回近松門左衛門賞優秀賞受賞。2012年、第2回日韓演劇フェスティバル『小町風伝』に出演。韓国演出家の李潤澤氏と出会う。李氏の劇団『演戯団コリベ』によって戯曲『ふくろのケムリ』が韓国語に翻訳され、ソウル・釜山等、韓国3都市で上演される。これをきっかけに、韓国演劇人との交流が増えていく。韓国現代戯曲ドラマリーディング Vol.6 では『海霧』にナレーションとして参加。2013年4月、東京で劇団『ケムリノケムリ』を旗揚げ。初公演の主演に韓国人俳優を迎える。2014年『中房総国際芸術祭いちばらアート×ミックス』におけるプロジェクト『いちばら人生劇場』に創作で参加。韓国人演出家の姜命秀氏、フィンランド人パフォーマーヘイニ・ヌカリ氏と共に演劇・展示作品を発表した。

訳=鬼頭典子★

出演=青木鉄仁/角谷邁★/岸隼隆至/小山萌子/秦由香里/都築香弥子/長尾奈奈/中村万里/町田カナ/南谷朝子/山野史人
アドバイザー=沈池娟

90年代中頃のある夏の日。韓国の田舎町にある古い家に集まった家族。この日、彼らの心の叫びが『五重奏』を奏でる。一家の父キム・キプンは、利己主義で古い風習に囚われている70代の老男。後継ぎとしての息子を持つことを強く望み、妻以外の女性とも関係を持つが、何の因果か娘ばかりが生まれる。危篤を装い、バラバラに暮らす四人の娘を呼び寄せたキプン。数年ぶり集まった腹違いの四姉妹。それぞれ人生に苦悩と不満を抱える彼女たちは、互いを意識し衝突する。そこへキプンと関わりのあった女性たちの霊も集まってきて、憂の絡まる古い家は、傾き地面に沈み込んでいく……。血縁や因習、過去やトラウマ。登場人物は皆、何かに取り憑かれていて自由に歩くことが出来ずにいる。家族のアンバランスな思いは互いの人生と運命を浮かび上がらせて、新しい朝を迎える。

『木蘭姉さん』 목란언니……………2012年作品

作=金垠成 (キム・ウンソン) 김은성

1977年生。全羅南道、宝城出身。東国大学北朝鮮学科中退、韓国芸術総合学校演劇演出科卒業。在学中に執筆した『シドン仕立て店』が韓国日報新春文芸(2006)に当選し、新人とは思えぬ確かな筆力で注目を集めた。彼は一貫して社会の底辺で暮らす人々や、韓国の近現代史の暗部をモチーフにした作品を書き続けている。社会に対する作家のストレートな問題意識をユーモアを交え、時に生活感・情感のこもった方言を駆使した台詞で舞台化する作家として定評がある。特に北朝鮮から韓国に渡った女性を主人公に、韓国の現代社会を捉えた『木蘭姉さん』(2012)は、数々の演劇賞を受賞。2011年には演出家ブ・セロムとともに劇団月の国椿の花(タルナラドンベッコ)を旗揚げた。作品に『死ぬほど死ぬほど』(2007)、『スノウ叔父さん』(2010)、『月の国連続ドラマ』(2012)、『干潟』(2012)、『ロ・ブンチャン流浪劇場』(2012)、『ぐるぐるぐる』(2014)などがある。

演出=松本祐子

文学座所属の演出家。1999年より文化庁派遣芸術家在外研修員として1年間ロンドンにて研修。主な演出作品に『冬のひまわり』『秋の螢』『ペンテコスト』『ホームパティ/カプトル』『ぬげがら』『大空の虹を見ると私の心は躍る』(以上文学座公演)、『ピーターパン』『ウーマン・イン・ホワイト』(ホリプロ)、『てのひらのこびと』『鳥瞰図』『やけたトタン屋根の上の猫』(新国立劇場)などがある。韓国では2006年に韓国演出者協会のアジア演出家ワークショップで鄭義信の『20世紀少年少女唱歌集』演出。また2009年には劇団美醜で井上ひさし氏の『天保12年のシェイクスピア』をベ・サムシク氏の翻案により『哲鐘13年のシェイクスピア』として演出。2005年『ぬげがら』と『ピーターパン』の演出に対し、毎日芸術賞・千田是也賞を受賞。桜美林大学非常勤講師。

訳=石川樹里

出演=荒川大三郎/稲松遥★/井上倫宏/ Kiyoka★/桜井麻樹/高畑こと美/谷山知宏/寺内よりえ/永栄正頼/永野和宏/日沖和嘉子/星野愛★

北から来た女、木蘭。彼女は平壤で音楽家として教育を受けたエリートだった。騙されて祖国を離れることになった彼女は、もう一度愛する家族と暮らすために、なんとしても祖国に帰りたい。そしてもう一人の女、ソウルで水商売を手広く営み女手ひとつで三人の子供を育ててきたチョウ・デジャ。太山、太江、太陽と名付けた息子と娘と、北から来た女-木蘭が出会う時、南と北が出会う時、それぞれの愛と欲が絡み合い、現代の韓国の社会の闇が浮き彫りになる。2012年東亜演劇賞戯曲賞を受賞し、その年の演劇評論家の選ぶ今年のベスト3に選ばれた問題作。混沌とした社会に救いはあるのだろうか……。

『アリバイ年代記』 알리바이 연대기……………2013年作品

作=金載曄 (キム・ジェヨブ) 김재엽

1973年、大邱生まれ。延世大学国語国文学科卒業、漢陽大学大学院演劇学科博士課程修了。現在、劇団ドリームプレイ代表。世宗大学映画芸術学科教授。1998年『九つの砂時計』で韓国演劇協会の創作劇公募に当選、2002年『ベルソナ』が韓国日報の新春文芸戯曲部門に当選。『劇団パーク』の創立メンバーとして2002年『チェックメイト』を作・演出し、演出家としてもデビュー。2005年『劇団ドリームプレイ』を創立し、その創立公演『幽霊を待ちながら』は居昌演劇祭大賞および演出賞を受賞。『時間』『死』『待つこと』に関する哲学的寓話に土台を置いた才気はつらつとした初期の作品から、同時代の社会問題に対する積極的関与と変化を模索する作品に、関心を広げている。2013年、作・演出した本作品で東亜演劇賞の作品賞、戯曲賞を受賞。この公演は韓国演劇評論家協会が発表する『今年の演劇ベスト3』、月刊『韓国演劇』が選定する『今年の演劇ベスト7』にも選定された。

演出=公家義徳★

東京演劇アンサンブルの俳優・演出家。俳優としては、故・広渡常敏に見出され1998年頃から劇団の主要作品で主役をつとめてきた。海外公演の実績も多く、7か国11都市での主演公演を経験し高い評価を得ている。演出家としては、広渡の死後、2007年より積極的に取り組んでいるが、2013年3月にはポーター・シュトラウス『忘却のキス』2014年9月にはデア・ローアー『無実』と、ドイツ現代演劇を代表する劇作家の難解なテキストにも挑戦。『俳優の身体性の無駄を削ぎ、セリフを抑制し、戯曲のエッセンスを凝縮し、極限まで洗練する』『寸分の迷いもない、大胆かつ確かな演出』などと評された。また、中学・高校生への演劇ワークショップ講師なども定期的にを行い指導的な役割を果たしている。

訳=浮島わたる★

出演=石母田史郎/井ノ口勲/加藤裕/日下範子/高村尚枝/津田修平/中山一朗/ハゼヤマ俊介★/廣畑達也
父の流した涙の理由とは…

2014年に韓国の様々な演劇賞を総なめにしたこの作品は、作・演出のキム・ジェヨブ本人と父テヨン、兄ジェジンの年代記をドキュメンタリー的に綴った叙事的な物語である。1930年植民地時代に大阪で生まれ育った父キム・テヨンは1946年、解放の翌年に祖国朝鮮の地へと戻り、その後1955年に定年を迎えるまで大邱中央高校で英語の教師を勤めた。2003年12月、その父が病床で、息子ジェヨブにある秘密を語り始める。作者・演出のキム・ジェヨブは劇中でもジェヨブ本人として登場する。父の背中を見つめながら過去を振り返り、語り、生き方を模索していくジェヨブ。終戦、朝鮮戦争、韓国民主化闘争、大統領選挙…混沌とした時代の大きな流れに翻弄されながら生きてきた父とその二人の息子たちの年代記を、自己告白的にありのまま語ることで、彼らをとりにくく社会の闇が暴き出されていく。

	1/15 (木)	1/16 (金)	1/17 (土)	1/18 (日)
14:00		木蘭姉さん 五重奏	アリバイ年代記	
19:00	五重奏	アリバイ年代記	木蘭姉さん	17:00 シンポジウム

■『五重奏』

作:キム・ユンミ 翻訳:鬼頭典子 演出:保木本佳子
1月15日(木)19時開演 アフタートーク:保木本佳子
1月17日(土)14時開演 アフタートーク:キム・ユンミ

■『木蘭姉さん』

作:キム・ウンソン 翻訳:石川樹里 演出:松本祐子
1月16日(金)14時開演 アフタートーク:松本祐子
1月17日(土)19時開演 アフタートーク:キム・ウンソン

■『アリバイ年代記』

作:キム・ジェヨブ 翻訳:浮島わたる 演出:公家義徳
1月16日(金)19時開演 アフタートーク:キム・ジェヨブ/
公家義徳
1月18日(日)14時開演

■歓迎セレモニー

1月16日(金)18時45分～
日韓演劇交流センター会長 大谷吉雄
韓日演劇交流協議会会長 キム・カンボ

■シンポジウム『女性が世界を変える』

1月18日(日)17時～
キム・ミョンファ キム・ユンミ 永井愛 小林七緒 大谷吉雄

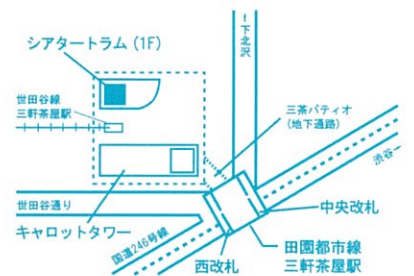
日韓演劇交流センターとは、1999年以前に韓国演劇協会と日本演出者協会の共催で行われていた「日韓演劇人会議」によって設立が提案され、2000年4月、(社)日本劇団協議会、(社)国際演劇協会日本センター、日本演出者協会、日本劇作家協会、日本新劇俳優協会、国際演劇評論家協会、日本新劇製作者協会ら、国内演劇関係団体7団体を中心として発足しました。

【車椅子スペースのご案内】(定員有・要予約)
料金:10%割引・付添者1名まで無料
申込:03-5432-1515(劇場チケットセンター)
申込締切:ご利用希望日の前日19時まで

【託児サービス】(定員有・要予約)全公演有り
料金:2,000円(税込)
対象:生後6ヶ月以上9歳未満
申込:03-5432-1526(劇場)
申込締切:ご利用希望日3日前の正午まで
※障害のあるお子様についてはご相談下さい。

料金:各1,500円(全席自由)
通し券=4,000円(日韓演劇交流センターのみ取扱)
シンポジウムのみの場合:500円(全席自由)
※ドラマリーディングの半券提示の場合は無料になります。
前売開始:2014年11月30日(日)

チケット取扱
世田谷パブリックシアターチケットセンター
TEL:03-5432-1515 (10:00～19:00 年末年始をのぞく)
パソコン:http://setagaya-pt.jp
携帯:http://setagaya-pt.jp/m/
日韓演劇交流センター(東京演劇アンサンブル内)
TEL:03-3920-5232 (11:00～18:00)



シアターラム
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 03-5432-1526
東急田園都市線三軒茶屋駅(渋谷より2駅・5分)
世田谷線三軒茶屋駅となり